和をもって

第29号

発行
成相山成相寺
京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
http://www.nariaiji.jp/

『和をもって』とは

新緑のまぶしい季節です。世話人各位におかれましてはお元気でお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

コロナ禍も一段落してほっと一安心ですが、一方ではウクライナで多くの人が戦いで亡くなり、何という無情かと、何をすればいいのか解らず手を合わせる毎日です。

一日も早い終息と平和を願っております。いつの世も戦乱とは縁が切れないのが人間というか、人類なのかと悲しい思いです。

このお便りの題名にもなっております「和をもって」は聖徳太子の十七条憲法の冒頭に書かれており有名な一文ですが、この一文にも戦いが見え隠れします。

元々は孔子の「論語」の中に出てくる言葉です。孔子と言う人物は紀元前五百年頃に生きたといわれ、仏陀とほぼ同年代に沢山の教えを残していった、そして亡くなってから二千五百年も経ってもまだ人々にメッセージを送り続けている。そんな偉人です。

儒教とはいわゆる宗教として捉えられるのではなく、国家統治の基本理念としてその時々の権力者に用いられてきました。

聖徳太子も又戦乱に明け暮れる日々を終わらせ、儒教を国の統治の要に置きたかった。それと同時に新しく日本に入ってきた仏教の教えも取り入れたかったのではないかと考えられています。

最近、聖徳太子は実在しなかったのではないか、という説もありますが、これは私共の成相寺においては看過出来ない事柄です。

西暦六百年ごろ飛鳥の都で、古代日本の神を祀りそれを柱とした一族の【物部氏】と、渡来人の一族で仏教を深く信仰する【蘇我氏】との政変の中、太子は母子でこの丹後の地に逃れ、その道中に祠を建てて観音様をお祀りした。というのが成相寺の根本の縁起ですから。居ないと言われて、そうですかとは、申し上げられません。

先程申しました「聖徳太子十七条憲法」冒頭の「和をもって貴しとなす」ですが、「論語」に加えて色々な中国古代の文献よりの出典がみられるそうです。聖徳太子は論語に出てくる「礼」と「和」の両輪を以て治世を行うと言う所に重きを於いたのではないでしょうか。「礼」とは儒教。「和」が仏教。この両輪が上手く動いてこそ国が上手く動かせる。戦乱の世が終わらせられると。歴史学者の方がこの文章をご覧になったら、そんな簡単なものじゃないと、お叱りを受けると思いますが。

聖徳太子は、新しい日本にはこの仏教と儒教、また中国古代の教えも上手く取り入れ、日本風に解釈された教えが必要と考えたのでしょうか。今となっては分かりませんが、確かに太子は生きておられたと信じたいものです。

今の時代でも同じであると考えます。ジェンダーフリーや人種間の問題、国と国との争い。権利と平等、主義をかけての戦いです。お互い人間対人間です。『人として人を敬い和をもって貴しとなす』

あらためて、この言葉の重み、理念を忘れずに心に刻みたいと思います。この言葉で全ての問題が解決できるなどとは思ってもおりませんが、悲しむ人が一人でも少なくなる世の中であってほしいと心より願います。

五月の連休以来お参りの方々も増えてきました。皆様納経帳を手に階段を上って来られます。やはり平和で健やかな世の中がいかにありがたいかと、しみじみ感じております。

どうぞ健康に気を付けて毎日をお過ごしください。

合掌

南無観世音菩薩　　山主　弘眞

一に曰く
和を以て貴しと為し
忤うこと無きを宗と為
人皆党有り
亦達者少なし
是を以て或いは君父に順ず
乍ち隣里に違う

山内順礼

今回は楽寿観音をご紹介します。

成相寺は西国三十三所観音霊場の第二十八番札所ですが、近畿楽寿観音三十三所霊場の第一番札所でもあります。

近畿楽寿観音霊場とは、『豊かな老後』を約束するため観音信仰を高めることが現代の寺院の務めの一つであるとの考えから平成元年に設立されました。

今を生きる人々、第二の人生を迎えた方々の心豊かな日々に寄与すべく「信仰・健康・観光」を合言葉に、滋賀県・京都府・兵庫県に及ぶ北近畿の寺院を中心に組織された霊場です。

楽寿観音のご利益としましては、健康、福寿長命、ボケ封じなどがあります。

この度、楽寿観音のご祈願を受付いたします。

ご希望の方は申込用紙に記入いただき、千日まいりのお申込みと一緒にお送りください。ご祈祷したお札とお守りをご送付いたします。